

なめがたでキラリ輝く「ひと」

夕日をつけて白い帆が輝く観光帆引き船
 市ホームページ「フォトライブラリー」より



さかもと りょうた 坂本良太さん (26歳) ・ たつや 龍弥さん (28歳)

Profile

帆引き船継承者。観光帆引き船に乗船し、地元の漁師から手ほどきを受けている。八坂神社の馬出し祭りでも、馬出し祭り保存会の一員として活躍中。兄弟で自営業に従事。麻生在住。

風を受け、丸くふくらんだ白い帆。筑波山を背に霞ヶ浦に浮かぶ行方市の観光帆引き船は、毎年9月から12月上旬の毎週末運航しています。

漁師と共にこの帆引き船を操業するのは、若手の継承者である坂本龍弥さんと良太さん。二人は口をそろえて「地元が好き」と話します。

「帆引き船に乗るようになってから3年がたちました。小さいときからお世話になっていた漁師さんから『帆引き船を操れるのは年配の人だけになってし

まって、後継者がいない』という話を聞き、若手の私たちも協力して、帆引き船の伝統文化を守っていききたいと思いました」と兄の龍弥さん。

「私も週末になると観光帆引き船見学の受付を手伝っていたので、兄と一緒に、帆引き船の操業に挑戦してみようという気持ちになりました」と弟の良太さん。

「私たちの父と祖父も漁師をしていたので、霞ヶ浦での漁は身近なものでした。帆引き船は風に任せて操業するので、風にあおられないよう帆をロープで調整する作業など、まだまだ難しいところもあります。でも、船上で漁師さんたちと会話をしている時間がとても楽しいですね」と龍弥さんは話します。

二人を指導する漁師の一人、越川留吉さんは「龍弥と良太は、子どもの頃から知っているから、かわいくて仕方ないんだ。二人のじいちゃんはずっと一緒に漁に出ていたしね。こうして二人が帆引き船継承者として頑張ってくれるのが、私にとって本当にうれしいことだよ」とっこり笑いながら話してくれました。

明治時代から昭和40年代まで

続けられてきた霞ヶ浦の帆引き網漁。水辺のにぎわいを取り戻すシンボルとして復活した観光帆引き船は、行方市の風物詩となっています。

「雲一つない晴天の昼下がり、ぴんと張った白い帆が浮かぶ景色は、息をのむくらいきれいです。また、夕方の操業で、冬の夕日を浴びながら湖上をゆく帆引き船の姿も雄大です。ぜひ見に来ていただきたい写真に収めてほしいと思います」と龍弥さんと良太さんは話します。

「行方市は、観光帆引き船の他にも、霞ヶ浦・北浦の恵み、さつまいものテーマパークなどもできて、ますます魅力のあふれるまちだと思います。水辺でサイクリングを楽しむ観光客らにも、どんどんPRしていきたいです」と笑顔の二人。

本年度の観光帆引き船のシーズンは終了しましたが、これからも地元のために頑張っていきたいと話す二人の姿が、とても頼もしく感じました。

◆観光帆引き船についてのお問い合わせは、行方市開発公社（0299-551300）まで。

スマホでもっと楽しめる！市報なめがた デジタルブック！

▼市報に登場するこのマークに注目！



市報に掲載されていない画像や動画をご覧いただけます。右のQRコードから無料アプリ(カタボケ)でご覧ください。



デジタルブックは7言語に対応
 Delivering e-book in English
 电子书籍以中文简体字发布
 电子书籍以中文繁体字发布
 한국어전자전송중
 ในระหว่างการจัดส่ง หนังสือดิจิทัล
 Entregar e-book em Português

※ブラウザ版は音声読み上げや画像スライドショーには対応しておりません。無料アプリ(カタボケ)のインストールが必要です。

防災無線の情報が、市メールマガジンでも確認できます

下のQRコードから操作してください。

新規登録はこちら→
 (空メール自動登録)



配信項目変更はこちら→

